

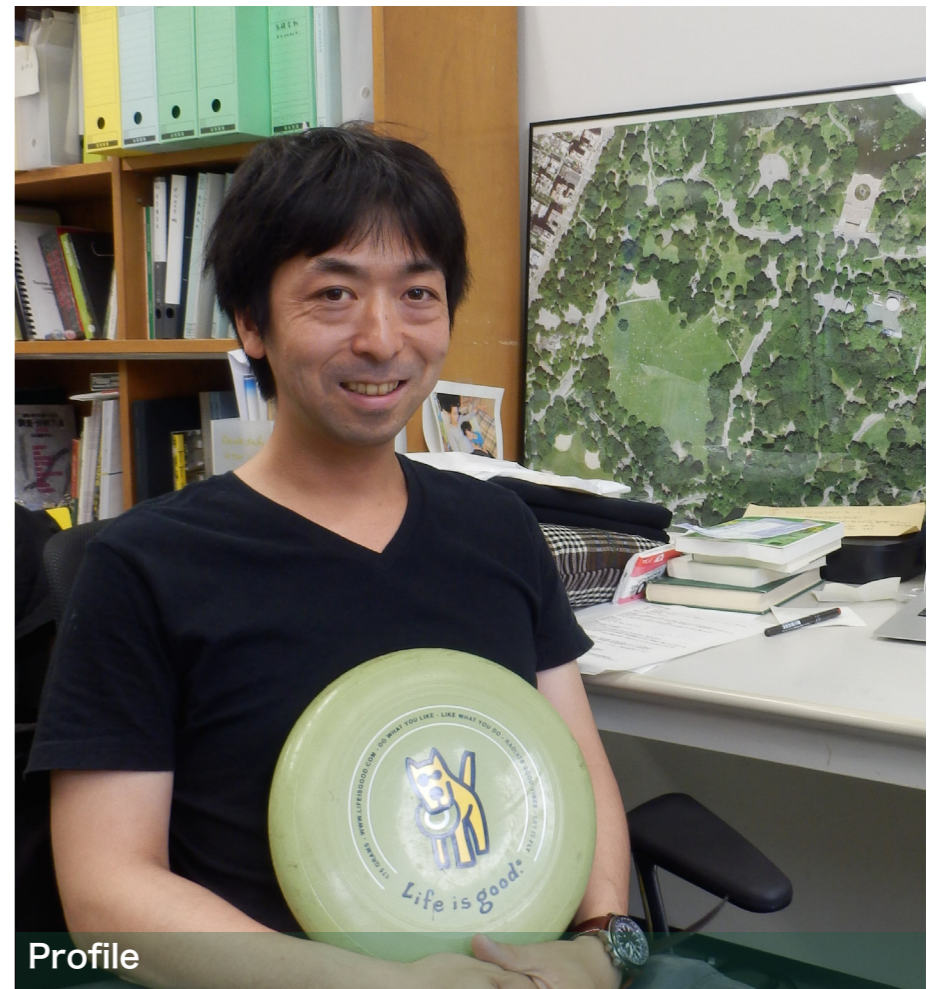
何か心に残る一言を

A Word That Remains in Mind

今年度の第二弾は5月で助教着任一周年を迎えた三島助教へのインタビューです。三島助教と都市デザイン研究室の接点は主に学部生の演習ですが、その進め方はこれまでの都市工学科の中でも異質。都市に関わる人を育てる演習への思いや222の誕生秘話等にも迫った濃密な2時間半となりました。

—三島助教の本音に迫った2時間半— -2.5 Hours to Explore the Real Intention of Asst. Prof. Mishima-

取材：道喜、M1 福永 編集：道喜



Profile

三島 由樹 Yoshiki Mishima

1979年7月9日東京八王子生まれ。かに座。血液型不明。慶應義塾大学環境情報学部卒。ハーバード大学大学院デザイン学部ランドスケープアーキテクチャ学科修士課程修了後、マイケル・ヴァン・ヴァルケンバーグ・アソシエーツNYオフィスに勤務。東京大学大学院博士課程入学、満期取得退学。株式会社ルーツアンドシューツデザイン事務所設立。2013年より東京大学工学部都市工学学科助教。慶應義塾大学、千葉大学にてランドスケープデザインの非常勤講師を務める。

いった点で、アメリカのスタジオと都市工学科での演習との違いはありますか？
三島：アメリカのスタジオでは涙をよく見ましたね。都市工の演習で涙を見たことがないですね（笑）。
道喜：それでは現在、どのようなことを意識して演習に取り組みられているのでしょうか？
三島：色々ありますが、最初意識したのは演習のプロセスをフェイスブックでオープンにすることでした。今の3年生がその影響を受けています。フェイスブックには色々課題があるけど、大学の演習内容をオープンにすることは、大学の内外それぞれにメリットがあると思います。デザインを色んな人に見てもらうのは本質的に楽しいものですよ。それからチームプレー。これも特に難しいことではないですが、都市工の演習は4〜5人の教員で担当することが多いので、その中の自分の個性や役割を考えるようにしています。ちょっと浮いて恥ずかしいくらいがちょうどいいと思います。あとは、エスキスやジュリーで学生さんにコメントするときも、結構考えてコメントしています。教員から言われたいづまでも心に残る言葉っていうのが皆少なからずあると思うんです。皆が懸命に取り組んでいる課題に対して、人生に残るかもしれない言葉を発する機会をもらっているのだから、なんとかそういう言葉を選んで伝えたいと思っています。

福永：梅割りおかわりください。

222の風景

道喜：ところで、デザ研でもよく使っている14号館2階にある222に関して三島先生はどのように関わってきたのですか？
三島：道喜君も飲みますねー。この状態でまだ冷静に質問できるのはすごい（笑）。222に関しては、去年の6月に着任した後、比較的すぐ、窪田先生から旧ルームの改装をするので手伝ってもらえませんかというのが始まりで、この間お手伝いしてきました。幸いなことに当時は改装費があまりなく（涙）、それでも他の教室にはない雰囲気を作るために天井と床を剥がして卓球台を入れました。賛否両論ありますが、遊び心のある空間が学校の中にあるのはとても大事だと思っています。

道喜：222がこれからのような空間になってほしいと考えていますか？
三島：最近は222の風景が日常的になってきたし、部屋自体は今みたいに粗野でシンプルな感じがいいんじゃないかと。個人的にはミラーボールをつけたら言うことなしですが、これはまだ提案する勇気がありません。あとは、企画の内容と質を皆で工夫していくことが大事かと思いますが、これも自然と出ていく気がします。OHOOの方々には是非レクチャーをしに来てほしいですね。次の改修が出来る機会があれば、演習室をいかにワクワクする良い感じに出来るか皆で考えてみたいですね。

お子様について

道喜：三島先生はお子様が生まれて、生活環境や考え方等大きく変わったことありますか？
三島：5歳になった男の子がいます。当たり前ですが、これまで味わった事のない、想像もしていなかった、新しい様々な感覚に日々出会います。子供はいじい方がいいです。人生を生きなおしている感じもします。余計なことを考えずにすむようになりました。100歳まで生きてみたいになりました。いいことだらけです。

一言お願いします！

三島：ほぼ同時にご誕生ということで都市デザインの神様も粋なことをするなと思いました。本当におめでとうございます。今度飲みながらパパ・アーバニズムについて話しましょう。それと、いつか222でキッズ・ナイト（ドラえもん上映）をやりたいです。
道喜：本日はお忙しい中、おいしいお酒と非常に貴重なお話をありがとうございました。
三島：次回は道喜君をめちゃくちゃにしてみよう、福永君。
福永：はい、そうしましょう。つくねホントおいしいですね。

三島：最高に楽しかったですね。一方で、噂には聞いていましたが、ほんときつかったですね。午前中は講義、午後はスタジオ、夜はロッキーマンの映画をヘッドホンで聴きながら模型をひたすらつくり、ケンブリッジのキレイな朝焼けを見ながら帰り、寮でビールを飲んで日記書いて寝て、すぐまた朝に大学に戻ってドーナツとコーヒーから始まる日々でした。週末は小旅行を繰り返していました。吹雪の夜中に寮に帰ったら寮の鍵穴が凍り付いて鍵が全く入らず、こんな死に方はいやだと思ったこともありましたが、でも、最高に楽しかったですね。道喜：相当過酷な学生生活だったんですね。その

研究室で行われるはずであった今回のインタビューは、大学内では緊張して話せないという三島先生の希望により、三島助教行きつけ本郷三丁目名店「もつ焼きじんちゃん」にて行いました。
三島助教（以下敬称略）：こんばんは。
じんちゃん：お、今日は生徒さんと一緒ですか？
三島：うーん、この二人には良いことは何も教えたことないので正確には生徒さんじゃないけど、東大の学生さんです。彼らはサッカーやっててボランチなんです。じんちゃんはポジションどこでしたっけ？
じんちゃん：おれは生粋のフワード。飲み物は？
三島：瓶ビールと生ふたつで。
道喜：このお店よく来られるんですか？
三島：うん、時々。良いお店だよ。
一同：ではよろしくお願ひします。かんばーい！



▲学部3年演習の様子

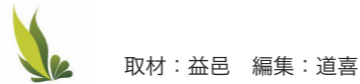
「実務でそんなにお忙しいのだから教育の仕事はしなくていいんじゃないですか？」と聞いた時、「素晴らしい先生達に教わってきた自分には、どんなに忙しくても教育の仕事をする義務があるんだ」と言われました。この言葉はとても響いて、僕が今こういう仕事をしている理由になっています。「SDOの大学院には行くな、とにかくアメリカの大学院に行け」と背中をズドンと押ししてくれたのも坂さんでした。あ、じゃあ皆で梅割り焼酎飲みますか。3つ下さい。
道喜：これ結構強くておいしいですね。
三島：アメリカの大学院と都市工の違いは何か？
道喜：アメリカでの学生生活はどのようなものでしたか？
三島：最高に楽しかったですね。一方で、噂には聞いていましたが、ほんときつかったですね。午前中は講義、午後はスタジオ、夜はロッキーマンの映画をヘッドホンで聴きながら模型をひたすらつくり、ケンブリッジのキレイな朝焼けを見ながら帰り、寮でビールを飲んで日記書いて寝て、すぐまた朝に大学に戻ってドーナツとコーヒーから始まる日々でした。週末は小旅行を繰り返していました。吹雪の夜中に寮に帰ったら寮の鍵穴が凍り付いて鍵が全く入らず、こんな死に方はいやだと思ったこともありましたが、でも、最高に楽しかったですね。



▲じんちゃんのつくね

■三島先生の取り組みについて
道喜：三島先生は今、主に学部3年生の演習で都市デザイン研究室と関わりがあるかと思いますが、他にはどのようなことをされていますか？
三島：（オーダー書きながら）今学期の授業系では他に4年生の演習、オムニバス、まち大演習、緑地計画特論、横張ゼミなどに関わらせていただいています。学内では他にNNNの整備グループ、キャンパスの植栽や広場整備に関するワーキンググループなどに入らせてもらっています。それから学外では、川崎の工業地帯でのまちづくりや、国内外のランドスケープデザインの仕事、他大での非常勤講師もやらせていただいています。色々やっていますが、全部楽しいです。あ、マカロニサラダまだありますか？
じんちゃん：お、まだあるよ。
三島：ついでに、これ美味しいんだよね。都市デザイン研究室の先生方とやらせていただいている演習もすごく楽しいです。皆さん熱いですよね。お、煮込みきたよ。これ美味しいですよ？
福永：まじうまい。
■演習課題の発想の源
道喜：先日三島先生が出された演習でのミニ課題のテーマが「好ましくない開発計画」という、今まであまり見たことのない面白いものだったのですが、こういったテーマはどのようなところから発想されているのでしょうか？
三島：それに関して言えば、ハーバードSDO留学時代に経験したことがベースになってると思います。色んな授業で面白い課題を沢山出してもらったのですが、これらを通じて、考え方の「型」を沢山教わりました。プロジェクトへのアプローチへの考え方、より良い提案にたどり着くためには、色々な考え方でアプローチしてみることがあります。そのため、自由に、かつ根

デザ研、新世代。 A New Generation Comes to the Lab!



5月に学部4年生の配属研究室が決まり、今年度は5名が新しく都市デザイン研究室の仲間に加わりました。自己紹介に加え、4年生同士で互いの性格を紹介してもらいました。



深町 知貴

Tomoki Fukamachi

無口なクールガイ。でも設計とか、暴れるときは暴れます。笑 まだまだ発掘していきたいです。
— by 浜田

出身地 さいたま／小さいころの夢 お金持ち／入学から今までで一番がんばったこと あまり思い当たらないけど強いて言うなら集住？これからがんばります。／**研究室を選んだ理由・やりたいこと** 具体的に決まってるわけじゃないけど設計とかそういうのができたらなーと思います。／**好きな道** 本郷周辺にあるような細い坂道が好きです。上るのも下るのも好き。



越野 あすか

Asuka Koshino

いつもニコニコしててスラッとしてるイメージ。 — by 高島

出身地 大阪府枚方市→横浜市／小さいころの夢 保育士、建築家／入学から今までで一番がんばったこと 集住ジュリー前日の徹夜／**研究室を選んだ理由・やりたいこと** 先生方、先輩方に惹かれたことと、卒論や修論で特に興味のあるものがほとんどデザ研だったことが大きな理由です。少子化対策や公共空間のデザインについて考えたいと思っています。／**好きな道** 家の前の並木道。ケヤキ並木がとても綺麗で、初夏の晴れた日などは歩く心がすーっと気持ちよくなります！



浜田 愛

Megumi Hamada

黒本史上3本の指に入る、THE・頑張り屋さん。ほんとにいい子。テンションの波激しめ。
— by 黒本

出身地 高知／小さいころの夢 お花屋さん／入学から今までで一番がんばったこと 人見知りの克服／**研究室を選んだ理由・やりたいこと** 空間とその形成を、人と絡めながら大きく柔らかく見ていきたいです。／**好きな道** 本郷通り→いるいろの原点。尾道→行ったことないけど多分好き。



黒本 剛史

Takeshi Kuromoto

南米音楽、テニス、ボーイスカウトなど色々やってて、話やすく、几帳面！これからよろしくね！ — by 越野

出身地 東京、世田谷。生まれだけ石川県。／小さいころの夢 電車の運転士。生粋の鉄ちゃんでした。／**入学から今までで一番がんばったこと** M1 羽野さんと一緒にベネズエラ音楽団で、全学体験ゼミナールの幹部をやったことです。／**研究室を選んだ理由・やりたいこと** 先生方、先輩方からたくさん吸収できる環境が整ってそうだからです。人が心地よいと感じる都市空間とはなにか、心理学的な観点も交えてなるべく論理的に分析してみたいです。大都市の共助や地方中心市街地の役割にも興味があります。／**好きな道** 川崎大師の参道。飴売りのおばちゃん達の威勢のよさや親密さあって、田舎に帰ったような気分になります。

高島 稔

Minoru Takashima

強そう。見るからにスポーツマン。色々そつなくこなしてるイメージ。
— by 深町

出身地 東京／小さいころの夢 サッカー選手／入学から今までで一番がんばったこと アルペンスキー／**研究室を選んだ理由・やりたいこと** デザインや設計が好きだから／**好きな道** 緑の多い道。清々しいから。

質問事項

出身地／小さい頃の夢／入学から今までで一番がんばったこと／**研究室を選んだ理由・やりたいこと**／**好きな道**



死ぬほど好きな青春の一冊 A Favorite Book to Death in Youth

取材：柄澤 編集：道喜

去年から中島助教と研究室有志で始まった読書会が、メンバーの入れ替わりを経て再始動！

都市に関する名著を読み、議論することで都市デザインの向上を図る目的のもと、昨年度は「読まなければいけないけれどまだ読んでいない古典的名著」をテーマに12冊を読みまし。今年度は年間テーマ「ジェイコブズ後の都市」として、都市デザイン研究室が都市に為せることを周辺に議論していく予定です。



さて、今年度の読み初めは、鈴木博之著『都市へ』（中央公論新社 1999年）この本は、近世から近代にかけての江戸、京都、大阪に始まり、近代、戦後から現在、未来へと時間軸を追った章立てとしながら、近代の訪れが都市空間をどのように変容させていったかを、具体的な物語を繰り出すことで浮かび上がらせていきます。「場所」に対して、近代の訪れとともに西欧から入ってきたものが「機械的」な「空間」でした。歴史を消し去る歴史を続けている都市計画に対して、空間の持つ場所性をもう一度取り戻すんだ、と言うために近代という時代が選ばれ、場所性を見出していきます。事実を積み上げていくと鈴木博之の言いたいことが立ち現れてくる、それがまた歴史になっていくという、歴史が成立する瞬間のようなライブ感がこの本の魅力なのではないかという話をしました。中島助教にとっては、自分が歴史を考えていくための後押しとなった青春の一冊。たまに1フレーズ読むだけでグッと来て胸がいっぱいになってしまうとのあつい言葉も。

▲「都市へ」表紙

また、なぜ「都市へ」というタイトルなのかについても議論に。「日本の近代都市史」などのタイトルでないのは、時間軸を意識しているから。日本人が街を見る視点が水平から垂直に変わった近世から近代への都市の変化と、今後の都市への展望との2つが掛け合わされているという見方ができます。しかしその先への展望が著者も掴めてないからこそ「都市へ」なのかもしれません。この視点でもう一度読みなおすと、歴史家でありながら歴史を武器にせずと未来を向いてきた鈴木博之が、欲求不満のなかで端々から歴史の中に論を叩き起こしていている圧倒的な重みを感じられる、読書の方向性が広がる議論となりました。

先日行われた第2回は『空地の思想』、都市デザイン研究室ならではの太谷先生の素顔に迫る充実の読書会でした。次回はC・アレクサンダー『パタン・ランゲージ』を読みます。次回以降もマガジンまたはWEBにて読書会報告を行っていきますので、是非よろしくお願いたします！



▲読書会の様子

新たな命の誕生！

GWに黒瀬助教と中島助教のもとにお子様のご誕生されました！お二人から一言。

名前：菜緒（女の子）
由来：妻から春らしい漢字を一字もらい、物事を考える緒を見つけられる人になってほしいという思いを込めて、菜緒としました。
誕生場所：札幌の市電が見える病院
一言：家族が増えると、色々街の見方も変わるものだなと実感しています。子供と共に成長していけるようにがんばりたいと思います。



名前：犀（男の子）
由来：一文字で動物のサイです。サイ、かっこいいなあ。
誕生場所：杉並区荻窪の小さな病院
一言：計画学に浴している身としては、経験なきところに想像をめぐらし計画できないようではだめだと常々自戒しているんですが、息子との日々の暮らしがもたらす驚きと発見の連続の日は、大きな喜びと共に自分の不十分さを再認識させられ、もっと頑張らなくてはという糧になりますね。

5月のウェブ更新

新歓コンパ開催！
歴代佐原メンバーの会開催！
神田学会久保様との初顔合わせ
留学生コーナー第27弾！Dastid Ferati
5月9-12日清水ワークショップ
渋谷プロジェクト始動！
二度目の佐原
三国祭調査

是非ご覧下さい：
<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

6月の予定

6月1日 マガジン社会科見学（富岡製糸場）
6月2日 浦安現地調査
6月3日～16日 ユネスココースフォーラム
6月12日 研究室会議
6月18日 読書会

編集後記

道喜 開視

あと2週間半でサッカーのワールドカップが開催されます。今年は地球の反対側、ブラジルでの開催ということで日本時間の午前中に行われるみたいです。研究室ではそこまで話題には上がっていませんが、「どうやって見たら良いんですかね〜、鹿児島出身の遠藤と大迫を応援したいんですよ〜。」とM1中村さんの思わぬ熱さに感動して、触発されて、観戦方法と観戦時間の確保を今から画策しています。

